

東京病院ニュース

第99号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

巻頭言

国立病院機構東京病院院長 松井 弘稔



東京病院では、6月12日に今年度1回目、通算26回目の地域医療連携交流会を行いました。東京病院大会議室での講演会ではまず、「原発性肺癌に対する術式の変遷と当院の現

況」について、呼吸器センター外科 深見武史医長からお話があり、懐かしい写真あり、最新の低侵襲の術式の紹介ありで、私も知らない話がたくさんあって興味深いものでした。続いて、緩和ケア認定看護師 村山朋美副師長から、「東京病院の緩和ケア」の紹介がありました。1995年の開設で、来年は30周年になります。その歴史と一昨年完成した新病棟の紹介がありました。その後、食堂に場所を移して懇親会を行いました。院外から139名の医療関係者の参加があり、当院の医師、看護師、コメディカル、事務など52名の参加者と合わせて200名弱が集まり、コロナ前に匹敵する規模の会が無事行われ、顔の見える交流を深めることができました。

さらにその少し前には5年ぶりの海外学会にも参加しました。コロナ前はアメリカ胸部疾患学会(ATS)に毎年のように参加していました。ATS自体は、2年前から現地開催されており、今年もサンディエゴの巨大な学会場に世界中から呼吸科医が集まっていたましたが、参加人数はコロナ前よりも少なめな印象でした。新薬の治験の結果や、各分野のこの1年間の注目すべき進歩のまとめも聴けて、現地の熱気が感じられたのはいい経験でした。当院からも2演題の発表を行い、アメリカで活躍する医師や研究者とも久しぶりに交流できました。

コロナ感染は依然としてなくなっていないませんが、感染に気を付けながら、慎重に少しずつ交流を増やすことで、進歩し続ける医療の最先端を学びながら、それをより多くの患者さんに還元するべく、活動を続けたいと思います。

5月25日には緩和ケア病棟付属庭園完成記念式典が行われ、ベッドのまま散策ができる庭園内の通路が完成し、植栽が一通り済んだ庭園がお披露目されました。晴天で風が少し強い中、ご寄付いただいた方の中から希望者が参加し、植栽イベントなどを行いました。ライラックやミモザ、サルスベリなど花の咲く木を多く植え、多年草エリアにはこれからの時期に花の咲く植物を寄せ植えし、1年草エリアには種をまき、今後の植物の成長が楽しみです。



連携医の方を紹介します

福山内科クリニック

院長 瀬田 博允 先生



【診療科】 内科、循環器内科、消化器内科、訪問診療

【ご挨拶】

福山内科クリニックは、内科、循環器内科、消化器内科を標榜し、地域の皆様のかかりつけ医として、診療を続けております。2024年5月に院長交代があり、福山中名誉院長、瀬田博允院長、富田裕介副院長の3人体制で、これまで以上に患者様に寄り添い、「まごころを込めた」質の高い医療を提供できるよう努めております。また、5月より訪問診療を新たに開始し、力を入れております。通院困難となった患者様のご自宅に伺い、地域の在宅チームの一員として、ACP（アドバンスケアプランニング）を活用しながら、一人ひとりの患者様の状況に合わせた医療を提供しております。



副院長 富田 裕介 先生

福山内科クリニック 訪問診療

TEL 090-1819-3109

FAX: 050-3535-6556

● 外来診療

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・夜
午前 9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	—
午後 2:00～5:30	●	●	●	●	●	—	—

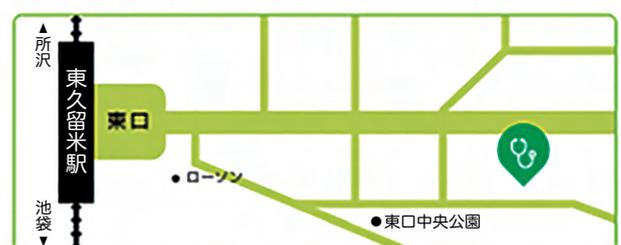
※ 受付時間は8時45分～12時、14時～17時です。

福山内科クリニック 外来診療

TEL 042-470-9177

FAX: 050-3535-6556

● アクセス



〒203-0013 東京都東久留米市新川町1-9-22

最寄駅：東久留米駅より徒歩4分

気を緩めることのできない新型コロナウイルス感染症！ ～感染対策の継続が必要です～

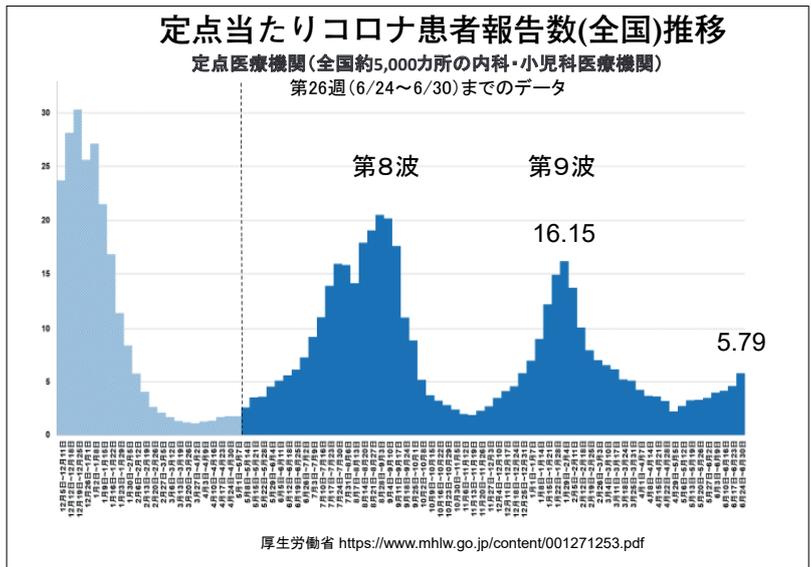
国立病院機構東京病院 感染症科部長 永井 英明

全国の新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の患者数の推移をみると（図参照）、第9波は第5週（1/29～2/4）に定点（全国約5,000医療機関）当たり16.15人のピークをつけ、その後減少し、第18週（4/29～5/5）には2.27人となりました。東京都は同時期に定点（東京都414医療機関）当たり1.48人まで低下しました。しかし、翌週からは両者とも増加に転じ、8週連続で増加しています。第26週（6/24～6/30）の最新のデータでは、全国5.79人、東京都5.57人でした。沖縄は29.91人と全国で最も多い患者数となっています。定点当たり10人を超えている県は、鹿児島県15.2人、熊本県12.21人、宮崎県11.78人、佐賀県11.26人とすべて九州地区でした。このような状況であるにも関わらず、ほとんど報道されず、世の中の人のコロナに対する関心は極めて薄いと思われる。マスクをしている人の数が激減していることを実感されていると思います。

軽い症状のコロナ患者が増えているので、あまり心配しなくなっているのかもしれませんが。しかし、コロナを発症した場合、後遺症が残る人がいて、長く苦しみます。後遺症としては疲労感・倦怠感、関節痛、筋肉痛、咳、喀痰、息切れ、胸痛、脱毛、記憶障害、集中力低下、頭痛、抑うつ、嗅覚障害、味覚障害、動悸、下痢、腹痛、睡眠障害、筋力低下など多彩です。少なくとも2ヵ月以上持続します。また、自分が軽くすんだとしても高齢者や基礎疾患のある人に感染させると、その人達は重症化しやすいので入院になる場合があります。やはり、コロナにはかかりたくないものです。

我が国では、コロナワクチンの全額公費による特例臨時接種期間は2024年3月31日で終了しました。2024年度以降のコロナワクチンの接種については、個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的とし、定期接種（B類）として実施することになりました。接種を受ける努力義務や自治体からの接種勧奨の規定はありません。各自治体において設定した自己負担額がかかります（低所得者を除く）。定期接種の対象者以外の方は、任意で接種できます（自費）。

定期接種の対象者は65歳以上の方と、60～64歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方です。接種時期は秋冬（年1回）で、他のワクチンとの同時接種については、特に医師が必要と認めた場合に可能です。他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。



各国の推奨機関におけるコロナワクチン春接種の推奨状況

オーストラリア ATAGI	<ul style="list-style-type: none"> 75歳以上の高齢者は6か月ごとにCOVID-19ワクチン接種を推奨 65～74歳までの高齢者及び18～64歳まで重度の免疫不全患者は前回の接種から6か月以上経過している場合、2023/24年のコロナワクチン追加接種を検討することを推奨
カナダ NACI	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の高齢者 高齢者向けの介護施設やその他の共同生活施設に居住する成人 生後6か月以上の中等度から重度の免疫不全患者
米国 ACIP	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の高齢者は前回のコロナワクチン接種後少なくとも4ヵ月以上の間隔で又はコロナ感染後少なくとも3ヵ月以上経過した時点で2023/2024年のコロナワクチン追加投与を推奨
英国 JCVI	<ul style="list-style-type: none"> 75歳以上の成人、高齢者向け介護施設の居住者、及び生後6か月以上の免疫抑制状態にある患者
フランス HAS	<ul style="list-style-type: none"> 80歳以上の高齢者、扶養高齢者向け住宅（及び長期ケアユニットの居住者、並びに年齢を問わず免疫不全患者を対象に2024年春（4月15日～6月16日）のコロナワクチン接種キャンペーン
ドイツ STIKO	<ul style="list-style-type: none"> 春接種推奨はなし
韓国 KDCA	<ul style="list-style-type: none"> 5歳以上の免疫不全患者、又は65歳以上の高齢者 コロナワクチン(XBB.1.5)の接種から3ヵ月(90日)経過していること(4月15日から開始)
香港 CHP	<ul style="list-style-type: none"> ハイリスク集団（介護施設に居住する50歳以上、基礎疾患を有する18～49歳、生後6か月以上の免疫抑制状態の患者、妊婦、及び医療従事者）を対象に前回の接種又は感染から少なくとも6か月経過後にコロナワクチン(XBB.1.5)を1回接種することを推奨
シンガポール MOH	<ul style="list-style-type: none"> 60歳以上の高齢者、医学的にリスクの高い個人、及び介護施設の居住者に接種を推奨 さらに医療従事者、医学的にリスクの高い個人の居住する世帯メンバー及び介護者を含む生後6か月以上に推奨
台湾 TW CDC	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の高齢者、生後6か月以上の免疫不全又は免疫力低下と評価された患者(4月から開始)

日本ではコロナのワクチン接種は上記のように秋冬となりました。しかしながら、世界的には春接種を推奨しています。どうしてかということ、ワクチンの効果は長持ちしないからです。また、コロナに感染したことによりできた免疫も徐々に低下するからです。表に示しましたように多くの国で春接種を勧めています。アジアの国々も同様です。このあたりの議論は日本ではどうなされたのか詳しく知りませんが、他の国と方針が異なるのは事実です。

いずれにしてもコロナの感染対策は当分続ける必要があると考えています。

シリーズ診断と治療 ▶ 禁煙外来

呼吸器内科 松井 弘稔

喫煙者はCOPDなどの呼吸器疾患や心筋梗塞などの循環器疾患、がんによって死亡リスクが高いことはよく知られています。タバコは、吸わない人からみたら、何であんなものをお金出して吸っているんだらう、というようなものですが、吸っている人からすると、タバコを吸うと落ち着いてイライラが収まるものようです。ところが、このタバコを吸うと落ち着くことこそがニコチン依存症であって、喫煙者は騙されているのです。たばこに含まれるニコチンは依存性があるため、離脱症状を生じます。喫煙者はニコチン依存症があるために、タバコを吸うと落ち着くのです。たばこをやめようとしてうまくいかないことが多いのも、ニコチン依存症のためだと考えられていて、タバコをやめてもニコチンの離脱症状が出ないようにすることで、比較的楽に禁煙を成功に導くのが禁煙外来の役割です。対象患者は、

- 1) 直ちに禁煙しようと考えている
- 2) タバコ依存度テスト (TDS) によりニコチン依存症と診断 (TDS 5点以上) されている
- 3) ブリンクマン指数 (1日の喫煙本数 × 喫煙年数) が 200 以上 (35歳未満は問わない)

のすべてを満たす方で、禁煙外来で文書同意をいただいてから開始となります。

参考にたばこ依存度テストの質問を掲載します。10問中「はい」が5個以上あるとニコチン依存症であると考えられます。

問 1.	自分が吸うつもりよりも、ずっと多くタバコを吸ってしまうことがありましたか。
問 2.	禁煙や本数を減らそうと試みて、できなかったことがありましたか。
問 3.	禁煙したり本数を減らそうとしたときに、タバコがほしくてほしくてたまらなくなることがありましたか。
問 4.	禁煙したり本数を減らしたときに、次のどれかがありましたか。(イライラ、神経質、落ち着かない、集中しにくい、ゆううつ、頭痛、眠気、胃のむかつき、脈が遅い、手のふるえ、食欲または体重増加)
問 5.	問 4 でうかがった症状を消すために、またタバコを吸い始めることがありましたか。
問 6.	重い病気にかかったときに、タバコはよくないとわかっているのに吸うことがありましたか。
問 7.	タバコのために自分に健康問題が起きているとわかっているのに、吸うことがありましたか。
問 8.	タバコのために自分に精神的問題が起きているとわかっているのに、吸うことがありましたか。
問 9.	自分はタバコに依存していると感じることがありましたか。
問 10.	タバコが吸えないような仕事やつきあいを避けることが何度かありましたか。

2024 (令和6) 年4月からの健康日本21 (第三次) において、喫煙は、がん、循環器疾患、糖尿病、COPD等の予防可能な病気のリスク因子であり、喫煙による健康被害を回避することが重要であるとして、20歳以上の喫煙率の減少、20歳未満の喫煙ゼロ、妊娠中の喫煙ゼロ、受動喫煙の防止(職場、家庭、飲食店などの受動喫煙をなくす)といった目標が設定されています。受動喫煙の防止も大事ですが、根本は喫煙者を減らすことですので、タバコをやめようとしてできなかった人や、タバコをやめたいと考えている方はぜひ禁煙外来を受診してみてください。

結核について (44)

呼吸器内科医長 山根 章

様々な形の結核を紹介しています。前回も骨関節結核についてお話ししました。

前回の話を要約すると、

- ① 脊椎結核（脊椎カリエス）においてはしばしば脊椎圧迫骨折が起こる。逆に、結核患者に脊椎圧迫骨折が見られた場合には脊椎結核も存在するかもしれないので精査する必要がある。脊椎結核による脊椎圧迫骨折が起こった場合には結核菌が血中に放出され全身に広がることによる粟粒結核を併発することがある。
- ② 脊椎カリエスの治療の基本は抗結核薬を服用することであり、抗結核薬のみで治癒に至ることが多い。しかし、背骨が不安定になった場合などには手術が必要になることがある。ということでした。今回も骨関節結核のお話をいたします。

骨関節結核の中で脊椎カリエスに次いで頻度が高いのは、手足の長い骨（大腿骨、脛骨、上腕骨など）の骨結核とそれに伴う股関節・足関節・肩関節・肘関節などの関節結核です。骨結核が近接した関節へ進展して関節結核を起こします。

肺などに病巣を作った結核菌が血流に乗って全身に拡がる場合があります。この時、血流が豊富な長い骨の骨端部に結核菌が定着して病巣を形成し、さらに近くの関節へと病気が進展していきます。例えば大腿骨結核の場合では、上の骨端にできた病巣は股関節へ進展し、下の骨端からは膝関節へ進展していきます。同じように、上腕骨結核の場合には肩関節や肘関節に進展していきます。

このような関節結核は他の細菌による関節炎と比べると症状が軽くゆっくりと進行するので、発病から診断までに時間がかかることが多いです。関節結核とわかったときには関節がかなり破壊されていて、もとの状態には戻らないこともあるので早期の診断が望まれます。関節結核は現在では珍しい病気なので実際の症例をあまり経験したことがない医師も増えていると思われませんが、診療の際に結核も考慮に入れる必要があります。

結核が蔓延していた時代には、小児結核が多くみられていました。小児は骨の成長が盛んなので骨への血流も多く、成人より骨結核の頻度が高い傾向があります。先ほど手足の長い骨（長管骨といいます）の結核は骨端部に起こることが多いと説明しましたが、成長期の小児ではここに骨を伸ばす役割を果たす骨端軟骨板（成長板）が存在しています。この部分が結核で侵されると伸びがさまたげられ、骨の長さが短くなってしまうこともあります。以前はこのような患者さんが多くみられたと思いますが、現在では小児結核は非常に減っていますのでこのようなケースは激減していると思います。

頻度は下がりますが、手足の長い骨以外にも骨結核は見られます。例えば、肋骨・骨盤・頭蓋骨・手の指・足の指など。

頭蓋骨の結核は珍しいですが、やはり小児に起こることが多かったようです。頭蓋骨の結核が、脳を侵すことはまれであるといわれています。

肋骨の結核は今でもわりと見る機会がありますが、詳しい話は次回にしたいと思います。今回のお話はこれでおしまいです。



特別メニューについて



栄養管理室

当院では、制限のないお食事（常食・貧血食・むさしの食）を喫食されている患者さんを対象に、特別メニューを実施しております。アレルギーや禁止対応のある方は対象外となる場合があります。毎日の朝食、火・木の夕食に実施しております。（特別メニューを選択すると別途自己負担額が発生します。）実際に提供しているメニューを一部紹介します。

朝食

特別メニューではパン食を提供しております。レーズンブレッドやクロワッサン、ホットケーキなど様々な種類のパンを提供しております。



夕食

麺類や丼ものなどボリュームのあるメニューや、手の込んだメニューなど、季節に合わせたお食事を提供しております。



特別メニューの内容については、入院患者さんを対象に年数回実施している食事に関するアンケートにて食べたいメニューを伺っています。患者さんからの声をもとに、新メニューの開発を行っております。入院中も季節を感じてもらい、楽しく食事ができるよう、栄養管理室スタッフ一同精進して参ります。食事についてお困りごとがある際には、院内のスタッフへお気軽にお声がけ下さい。



独立行政法人 国立病院機構東京病院

出前講座のご案内

東京病院では、地域の方々との交流・健康づくりのお手伝いの一助として、当院の職員による「出前講座」をご用意しております。皆様の地域に職員が出向いて、専門的な内容を分かりやすくお話しいたします。

なお、開催にあたっては、主催団体様においても十分な感染対策を講じていただく必要がありますので、ご理解・ご協力ほどお願いいたします。

※今後の感染状況や開催条件によっては、お受けできない場合もございます。予めご了承ください。

番号	講座名	講師
1	たばこの害について	院長 松井弘稔
2	PM2.5はどれほど危険か	院長 松井弘稔
3	いびきを放置するのは危険？～睡眠時無呼吸の話～	院長 松井弘稔
4	増えている非結核性抗酸菌症	感染症科部長 永井英明
5	結核は過去の病気ではありません！	感染症科部長 永井英明
6	大人のワクチンについて	感染症科部長 永井英明
7	こんな時は脳神経内科を受診してください（脳神経内科が診療する疾患について）	外来診療部長 小宮正
8	脳卒中になったら、ならないために…	外来診療部長 小宮正
9	認知症の予防と治療について	外来診療部長 小宮正
10	パーキンソン病の治療の進歩	外来診療部長 小宮正
11	「お茶でむせる」は要注意！～飲みこみの障害とその対策について	リハビリテーション科医長 伊藤郁乃
12	感染症から身を守ろう！～今日からできる正しい手洗い～	感染管理認定看護師 松本優子
13	抗がん剤と副作用	がん薬物療法認定薬剤師 植木大介
14	ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは	副薬剤部長 船崎秀樹
15	がん診断時からの緩和ケアについて ～緩和ケアを終末期医療と思っていないか？	緩和ケア内科医長 池田みき
16	もしバナゲーム(もしものときの話し合い) ～命の危険が迫っている時、あなたは何を大切に生きていきたいですか？～	緩和ケア認定看護師 村山朋美
17	遺伝子検査とは・・・（新型コロナウイルス・結核菌）	主任臨床検査技師 山口卓哉

○開催日時・場所

原則、平日の9時から17時の間で1時間程度といたします。会場のご用意は、主催団体側にてお願いします。

○申し込みができる団体

町内会、自治会、老人会、市民サークルなどの地域団体や、学校・企業などを想定した講座となっております。

○申込方法

希望日の概ね2週間前までに、下記のお問い合わせ先（東京病院経営企画室）まで、開催時期・講座名等についてご連絡ください。担当者にて調整させていただきます。

○その他

講演料は無料となりますが、講師の交通費等は主催団体側にてご負担をお願いいたします。

○お問い合わせ 東京病院 経営企画室（☎042-491-2111）



独立行政法人 国立病院機構 東京病院

外来診療担当医師表

(令和6年7月1日現在)

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1 TEL 042-491-2111(代) FAX 042-494-2168

〈予約センター〉 TEL 042-491-2181

※平日の8時30分～15時00分

〈地域医療連携室〉 TEL 042-491-2934/FAX 042-491-2125

※平日の8時30分～15時30分(医療機関からの問い合わせを除く)

【受付時間】 初診 8時30分～11時00分

再診(予約外) : 8時00分～11時00分

★は、予約患者様のみの診療です。

Table with columns for medical department (e.g., 呼吸器内科, 消化器内科), visit type (初診, 再診), and time slots (午前, 午後) for each day of the week (月, 火, 水, 木, 金). Includes a '備考' column for additional notes.